

# 2023年 産科部門統計

産科部門長 成瀬勝彦

## ご挨拶

2023年4月に産業医科大学から柴田英治が総合周産期母子医療センター・病院教授として着任しました。成瀬勝彦・産科婦人科学教室主任教授(産科担当)、多田和美・総合周産期母子医療センター病院講師/産科医長と共に、三名の周産期指導医(母体・胎児)が仲良く力を合わせて、県下の周産期医療の一つの要である当部門の運営にあたっています。

COVID-19 まん延の影響をまだ色濃く残していた2022年度に比べ、本年度は少しずつ元通りの診療が戻ってきました。当産科部門は1996年に全国に先駆けて母体胎児ICU(MFICU)を立ち上げたことで知られますが、現在でも6床のMFICUを含めこれまでの体制を維持しております。院内各科(とくに新生児科、救急科、麻酔科など)や県内各センターとの連携も引き続き良好で、特にもう一つの総合周産期母子医療センターである自治医大附属病院産科とは密接な連携を保っており、トップ間の情報交換も密におこなっております。また、周産期研修会や新生児蘇生法講習会などの研修事業についても次第に再開しております。

また2016年に設置された臨床遺伝診療室につき、成瀬が2代目の室長に就任して運営にあたってきましたが、2024年1月より遺伝・ゲノム診療部に格上げとなり、遺伝カウンセリング外来および診療部医局といったインフラの整備を行っています。引き続き鈴木新生児部門長(臨床遺伝指導医)の指導も頂きながら運営を活発にしております。出生前診断については母体血を用いた出生前遺伝学的検査(NIPT)の新基準における基幹病院として認定を受け、済生会宇都宮病院(宇都宮市)と秋葉産婦人科(茨城県古河市)を連携施設として、地域の遺伝カウンセリングニーズにお応えしております。

外来については火曜日・木曜日に産科部門の初診を受け付けております。ハイリスク妊娠外来、遺伝外来についてもこれまでどおり運営しております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 1. 診療実績

	2022年	2023年
分娩数	463	446

単胎	402	408
多胎	61	38（三胎：1）
帝王切開術	220（緊急 106、予定 114）	242（緊急 136、予定 106）
帝王切開率	47.5%	54.2%
吸引分娩	9	17
鉗子分娩	2	1
頸管縫縮術	9	12
子宮内容除去術	8	13
異所性妊娠手術	9	9

分娩数は全国的・全県的に減少傾向にあり、当院でも減少しています。一方で帝王切開数は 50%を超えました。帝王切開の判断基準に変化はなく、ローリスクの正常分娩が減っていることが示されていると考えます。

## 2. 分娩週数

分娩週数	2022 年		2023 年	
	出産児数	死産数	出産児数	死産数
22	1	0	1	0
23	2	0	2	0
24	2	0	4	1
25	5	0	7	1
26	3	0	4	1
27	3	0	2	0
28	0	1	3	0
29	9	1	2	0
30	1	0	9	1
31	5	0	5	0
32	7	0	9	0
33	11	0	17	2
34	25	0	24	0
35	24	1	24	1
36	45	0	44	0
37	101	0	92	1

38	95	0	92	0
39	69	0	79	0
40	72	0	68	0
41	38	0	25	0
42	3	0	2	0
合計	521	3	515	8

分娩数の減少にもかかわらず、早産は減少していません。ハイリスク妊娠・分娩の比率が上昇しているものと考えられます。

### 3. 出生児体重

出生体重 (g)	2022 年	2023 年
	児数	児数
500 未満	2	2
500-1,000 未満	21	17
1,000-1500 未満	19	20
1,500-2,000 未満	43	30
2,000-2,500 未満	90	109
2,500-3,000 未満	181	157
3,000-3,500 未満	158	144
3,500-4,000 未満	39	41
4,000-4,500 未満	6	2
4,500-	0	1
合計	524	492

(22 週以降)

分娩数は減少しているにもかかわらず、低出生体重児数は横ばいです。

### 4. 母体搬送・紹介

	2022 年	2023 年
緊急母体搬送・紹介受け入れ数	91 (産後 13)	116 (産後 19)
お断り症例数	30	15
緊急母体搬送・紹介数受け入れ率	76%	88%

母体搬送の受け入れ数が増加しました。一方でお断りの症例数は減少しており、新生児科の努力が大きいと思われます。理由については手術室不可、他患者対応中が主で、病棟満床を理由としたものはほぼなく、とくに新生児科が理由のお断りはありません。

なお、実数はお示しませんが、未受診妊婦が一定の頻度で搬送され分娩に至っています。また、外国籍の方も多く、栃木県の福祉・行政全体で考えていなくてはならない問題であると実感しております。

## 5. 母体搬送元

	2022	2023
栃木県	82	105
茨城県	6	0
群馬県	3	11
埼玉県	0	0
その他	0	0

栃木県内からの搬送がほとんどですが、隣県からの搬送もお受けしています。他県の医療情勢までは分かりませんが、群馬県からの搬送が多くあったことは記録しておく必要がありそうです。また、他県から紹介を受けた地域周産期センターが対応できず当院に外来紹介しそのまま入院となる例もあり、実際には他県で発生した症例、また他県在住の妊婦はもっと多くおられます。

## 6. 教育活動

COVID-19 まん延以前は、当部門は全国的にも積極的な教育活動で知られており、J-CIMELS(日本母体救命システム普及協議会:自治医科大学と連携)、NCPR(新生児蘇生法:新生児科と連携)、ALSO/BLSO(Advanced / Basic Life Support in Obstetrics:NPO 法人周産期医療機構)のコースを開催してきましたが、2020年から2021年にかけてはCOVIDまん延下でのコース運営方法が確立していなかったことや、各医療者の多忙により、十分な活動ができませんでした、2022年度に入ってから、十分な感染対策のもと、J-CIMELSおよびNCPRコースの開催を再開しています。このうちJ-CIMELSについては2023年2月17日(土)に院内で開催し、需要も高いことから2025年度にも開催の予定としております。更に、県内各救急隊との病院前救急に関するカンファレンスも多田医長を中心に進めており、県下の周産期救急に安心と安全

を与える事業を今後も推進してまいります。